

6月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回7月のてがたんは7月14日(土)で、テーマは「手賀沼の魚を観察しよう」です。
市民スタッフのみなさま、次回の下見は7月8日(日)です。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→けやき広場→旧水生植物園→藤棚→市民農園前水田
- 観察日時と天気：2018年6月9日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：39名(大人28名、小学生以下11名)
- 市民スタッフ：6名(石原直子、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録(下見を含む)

【*】は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/カッコウ科：ホトトギス(声)/ウ科：カワウ/サギ科：オオサギ/クイナ科：オオバン/チドリ科：コチドリ(声)/キツツキ科：コゲラ(声)/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ(声)/アトリ科：カワラヒワ(声)/ホオジロ科：ホオジロ
家禽や外来種：コバクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生爬虫類・魚類】

ミシシippアカミミガメ、ニホンカナヘビ、ニホンアマガエル、ウシガエル、ドジョウ、カダヤシ、フナ類

【貝類】

ヒメタニシ、サカマキガイ

【甲殻類】

ホウネンエビ*、アメリカザリガニ、ミジンコの仲間(カイミジンコ?)

【昆虫】

チョウ目：モンキチョウ、モンシロチョウ、コムラサキ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ナミアゲハ、キアゲハ、カノコガ、チャミノガ、マイマイガの仲間(幼虫)、ヒトリガの仲間(幼虫)/トンボ目：コシアキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ/コウチュウ目：ハイイロゲンゴロウ、小型ゲンゴロウの仲間、小型のガムシの仲間、ナナホシテントウ、ゴマフカミキリの仲間、マメコガネ、エノキハムシ、ウリハムシ、ヤノナミガタチビタマムシ(幼虫)/ハチ目：コアシナガバチ、クマバチ、ニホンミツバチ、スズメバチの仲間/ハエ目：ガガンボの仲間、ユスリカの仲間/バッタ目：オンバッタ、ショウリヨウバッタ、ヒシバッタ、コバネイナゴ、ヒメギス、キンヒバリ、タンボコオロギ、マダラスズ、カマキリまたはオオカマキリ(幼虫)/カメムシ目：アメンボの仲間、コミズムシ、アメンボの仲間(ヒメアメンボ?)

【クモ】

ハシリグモの仲間、クサグモの仲間、カバキコマチグモ(巣)

【花】

草の花 キク科：ブタナ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、ハルジオン、ヒメジョオン、ハキダメギク、ハハコグサ、チチコグサ、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ノボロギク、オオジバリ/ハエドクソウ科：トキワハゼ/シソ科：ホトケノザ/マメ科：シロツメクサ、コメツツメクサ/ケシ科：ムラサキケマン/ラン科：ネジバナ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ、イモカタバミ/アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ、コマツヨイグサ、ヒルザキツクミソウ/ナデシコ科：ツメクサ、ウシハコベ/ベンケイソウ科：コモチマンネングサ/ガマ科：ガマ/イネ科：イヌムギ、カラスムギ/イグサ科：クサイ/オオバコ科：オオイヌノフグリ、オオバコ、ツボミオオバコ、ヘラオオバコ/フウロソウ科：アメリカフウロ/アカザ科：シロザ/アブラナ科：ナズナ、マメグンバイナズナ、スカシタゴボウ、イヌガラシ/ヒルガオ科：コヒルガオ/ドクダミ科：ドクダミ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/ツユクサ科：ツユクサ
木の花 トウダイグサ科：アカメガシワ/ブナ科：マテバシイ、クリ/モクセイ科：トウネズミモチ/キョウチクトウ科：キョウチクトウ/アジサイ科：アジサイ/マメ科：ヤマハギ

観察した生き物の記録



今回のがたんのテーマは「田んぼに集まる生き物たち」でした。暑い中でしたが、水田に暮らす生きものを採集して観察しました。水生昆虫、アマガエルのオタマジャクシ、ドジョウなど、田んぼの中の小動物の多様性を感じることができました。



今月の案内人

石原直子さん

伊東茂子さん



① マテバシイの葉にいたマイマイガの仲間の幼虫



② 白い花が咲いていたマテバシイ



③ 道に落ちていたアカミミガメの幼体の死体



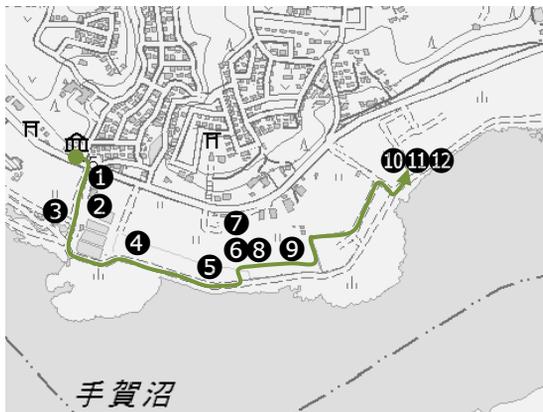
④ 林で見つけたカノコガ



⑤ けやき広場にいたカマキリの仲間の1齢幼虫



⑥ 手足が生えてきているアマガエルのオタマジャクシ。ふ化から1カ月ほどでカエルの姿に変態します。



歩いたルートと観察した生き物



⑦ 田んぼの脇の素掘りの水路で採集したドジョウ。身を隠すことのできる泥のある浅い水辺が生息には重要です。



⑧ 田んぼに多かったアマガエルのオタマジャクシ



⑨ ヨシにつくられたカバキコマチグモの巣



⑩ 市民農園横の田んぼにいたハイロゲンゴロウの幼虫



⑪ 田んぼの畦にいたタンボコオロギ



⑫ 田んぼの脇で採集したゴマフカミキリの仲間

今月の鳥 タマシギ チドリ目タマシギ科

タマシギは、ずんぐりとした体形のチドリ目の水鳥で、翼を開いたときの水玉模様が特徴です。湿地に生息し、日本国内では水田や休耕田などの農地で繁殖しています。タマシギは雌雄の役割が通常の鳥とは逆転しています。雌がさえずって雄に求愛し、雄が1羽で抱卵とヒナの世話をします。雌は産卵が終わると雄のもとを離れ、再び別の雄を求めてさえずり始めます。このような特殊な社会は、なぜ進化したのでしょうか？ タマシギの営巣する湿地環境は、巣の捕食や水没など、繁殖の失敗が非常に多いことが特徴です。このような環境の下では、雌が1回の繁殖に関わる時間を短くして、繁殖の回数を増やすことが有利なのだと考えられています。一見不思議な生態は、より多くの子孫を残すための適応なのです。



4羽のヒナを連れたタマシギの雄